

第1回富山市総合計画審議会 議事録

日時 令和7年8月26日（火）14:00～15:30

場所 ToyamaSakura ビル5階大会議室

1. 開会

2. 委嘱状交付

委員を代表して、市村 恵美委員（公募委員）に交付

3. 市長挨拶

4. 総合計画審議会会長の選出

委員の互選により、総合計画審議会会長に 庵 栄伸委員を選出
会長挨拶

5. 第3次富山市総合計画策定の諮問

市長から会長へ諮問書を交付

6. 総合計画審議会会長職務代理者の指名

会長より、会長職務代理者に 北岡 勝委員を指名

7. 議事

(1) 第3次富山市総合計画策定方針について

(2) 総合計画審議会部会の設置（案）について

(3) 策定スケジュールについて

事務局（富山市企画管理部参事（企画調整課長））より上記3点説明

8. 総合計画審議会部会について

事務局からの提案のとおり、4つの部会と全体統括のための調整部会の設置を決定

（人材・暮らし部会、都市・環境部会、活力・交流部会、協働・連携部会、調整部会）

(1) 各部会の所属委員の指名

各部会の委員を会長から指名

(2) 各部会長の指名

各部会長を会長から指名

人材・暮らし部会	:	部会長に	石動 瑞代	委員
都市・環境部会	:	部会長に	久保田 善明	委員
活力・交流部会	:	部会長に	森口 毅彦	委員
協働・連携部会	:	部会長に	中村 真由美	委員

9. 富山市民意識調査結果の報告

事務局（富山市企画管理部参事（企画調整課長））より説明

10. 意見交換

別紙のとおり

11. 閉会

【意見交換】

<概要>

会長 新たな総合計画を策定するに当たっての意見・提言をお願いしたい。

委員 市民意識調査結果において、子育て支援や子育て環境のまちづくりが重要という意見が出ているが、具体的に何が課題で、どの支援策が少子化対策につながるかは、全国的に答えが出ていない状況である。

少子化の影響や社会の価値観の多様化が進むほど、子育て支援が難しくなっている状況である。子どもの発達支援・教育に携わる中で得た現場の声を反映させたいと考えているが、現場でも課題が多数生じている状況である。

また、未来に繋がる計画を策定するために、若い世代の意見なども反映していきたい。

委員 総合計画策定での重要なポイントは、いかに持続可能なまちづくりを進めるための内容が反映されているかだと考えている。

持続可能な都市を脅かす要因を明確化し、対策を検討することが重要である。特に、人口減少が都市に与える影響を考えていく必要がある。

富山市が進めるコンパクトシティの取組は全国の自治体の中でも先進的である。現在、新しい都市マスタープランの策定を進めている。人口減少下で公共交通の維持が難しい中、富山市は公共交通を軸としたコンパクトシティを押し出しており、いかに持続可能な形にしていくかが重要なポイントである。

防災も重要なテーマであり、地震や台風、豪雨など様々な災害がある中で、どのようにレジリエントなまちをつくるかが重要である。その他にも近年は新型コロナウイルス感染症によるパンデミックも発生したが、異なるウイルスによるパンデミックも十分に想定される。コロナ禍で自宅周辺の生活環境の重要性を実感したと思うし、この経験を今後のまちづくりに活かしていくことが重要である。

また、社会インフラの老朽化も重要な課題であるが、すべてのインフラを維持していくことは難しいため、メリハリをつけることが重要である。そのために、どのように合意形成を図っていくか検討する必要がある。

地域コミュニティにおいては、賑わいづくりの観点から心地よい空間を形成し、さらには、経済に好影響を及ぼしていればと考えている。市民、県内、県外問わず、様々な人にとって魅力のあるまちづくりをしていければと思う。

環境への負荷は自然災害や地球温暖化にもつながっている。富山市としても環境負荷低減に努める必要があり、そのためには市民への意識啓発も重要である。

こうした課題をすべてネガティブに捉えるのではなく、ポジティブに捉えて未来につなげていくことが重要である。

委員 協働・連携部会は、幅広い分野が含まれていると感じており、特に、今後富山市ではどのように生き残るかが重要だと考えている。

少子高齢化・人口減少下で人手を確保するためには、女性の活躍は欠かせず、市職員数の減少も踏まえると、社会インフラを取捨選択していく上で、今まで以上に市民との協働は欠かせない観点だと考えている。

また、人口減少を緩和していくためには、富山市への郷土愛が重要になると思う。人口減少下で富山市が生き残るためには重要な社会課題であるため、皆様と協働していきたい。

委員 富山市の大命題は人口減少下における豊かさだと思われる。そのためには、目標設定が重要である。

1つが人口で、特に若年女性人口の定着が重要だと考える。若年女性の人口は将来の人口に影響するものであり、若年女性人口の定着のための取組が重要である。

豊かさを表す指標としては富山市の総生産額だと考えており、いかに総生産額を向上させるかが重要なポイントだと思う。

財政面では、財政力指数、経常収支比率、実質公債費率、将来負担比率の4つに重きを置いて指標設定を行い、目的意識を持って、進捗管理を行うべきだと考えている。

委員 市民意識調査結果について、少子高齢化が進む中で、少子に関わる部分のサンプル数をより多くし、意見をもらうべきではなかったのか。全体としては有効な調査数にはなっていると思うが、39歳未満のサンプル数が1,000件程度ないと意味はないのではないのか。今後は地域別・年齢別などの意見聴取や、少数派となる方々の意見聴

取も十分にしていきたい。

委員 全国的には人口が増加している自治体もあり、その多くは企業誘致が成功している自治体である。富山市は若者を引き付ける魅力的な働き口がないのではと感じている。

また、地方で人口が増加している自治体では、子育てや教育への支援が充実しており、安心して働くことができる環境が整っている。

加えて、雇用を生み出すような取組や楽しく暮らせるまちづくりを進めていくべきと考える。

委員 策定方針で整理されている策定の背景や背景の趣旨を見ると、難しい表現が見受けられる。

委員 市民意識調査結果について単純集計結果を示しているが、もう一工夫をして分析をすることで、問題の本質が分かってくる。

今後、部会でも内容を精査していければと考えているため、もし可能であれば集計データを提供していただきたい。

委員 バックカスティング思考で策定を進めていくということが、そのためには10年後のありたい姿を早急に議論すべきである。

富山県やほかの自治体でも総合計画を策定しているが、人口減少など共通課題があるものの、他自治体と似たような計画にするのではなく、市民目線を持った富山市特有の計画にすべきである。

また、選択と集中によるメリハリのついた総合計画にするとしているが、富山市らしい工夫もすべきと考える。

会長 策定方針にありたい姿や理想という言葉が示されているが、人口減少が進んでいる未来は見えているものの、どのようなまちになっているかは想像し難い。

楽しさや賑わいが生活には必要だと思うが、10年後の富山市の理想の状態について、委員の皆様と議論しながら描いていきたい。

(以上)